

# 困難に直面する家族等を支え、居場所をつくり、支援につなげる活動を続けます

## こども食堂・食糧支援

6

### こども食堂

#### 食を通じて子どもたちの居場所づくりを展開中

子どもの困った様子に気付き、子どものために何かできないかという思いで川崎区でも平成28年からこども食堂が始まりました。活動を始めた団体はそれぞれきっかけがありますが、地域の子どものことを思って食事を提供しています。



### 食糧支援

#### あなたも助け合いの輪に加わってみませんか

ネグレクトや新型コロナ感染症の影響で生活困窮に陥ってしまい、十分な食事を摂ることができない世帯を対象に食糧提供を行い、子どもたちの日々の生活を守る活動です。



## つながる輪ひろがる輪

### 川崎市 ふれあい館\*

\*指定管理者は社会福祉法人青丘社

ふれあい館の主な事業は、児童館「桜本こども文化センター」、学童保育「わくわくプラザ」の運営を通じて生活の見守りが必要な家庭の声を聞き、支援につなげることです。現状の枠組みにとらわれずに、困難な状況にある小学生、中学生、高校生と若者の

居場所づくりを進めています。今後、活動として力を入れたいのは、来日から日が浅く、日本語が十分に理解できない多文化な子どもの見守り・支援をしながら子どもと家族の居場所、若者の居場所の2本立てで事業に取り組んでいくことです。

## 子ども・若者、その家族を中心とした多文化共生の場



副館長の鈴木さん



多文化な子どもの見守り・支援に力を入れたい

### こども食堂

地域の人を中心とした実行委員会で運営。コロナにより「みんなで集まって食事」することが難しくなり、食事をお弁当に替えて実施しています。



困難に直面する人たちを、できることで、長く支えたい

### 食糧支援

地域の人とともに桜本フードパントリーを立ち上げ、毎月、食糧支援を行っています。外国籍の家族を中心に毎回50世帯以上の利用があります。お米や麺類などの食糧も地域の中で集めています。コロナ禍で収入が減少し、生活が大変になる中、専門的な支援とも連携をしながら、地域で家族の見守りをしています。

